



AI時代…人間だから果たせる「新たな価値創造」

ー ポートフォリオ・プロジェクト学習で意志ある学びをー

一級建築士・次世代教育クリエイター・シンクタンク未来教育ビジョン 代表

国立大学法人北海道教育大学〔教職論 PBL〕特別講師

鈴木 敏恵

DXで「知識」の流れが変わる

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、これまでのあり方がデジタル化で根本的に変わること。教育であれば、今まであたりまえと思っていた学校の風景や知識の流れや学びのカたちなどが、まったく新しいものになるということだ。

DXは、「知識・情報」の流れに根本的な変革を起こしている。1人1台コンピュータを手にした学習者は、自ら知識や情報を得ることが可能となる。先生や教科書を超え、専門家や当事者とつながることもできる。

資料ダウンロード

【未来教育ライブラリ】

<https://suzuki-toshie.net/>

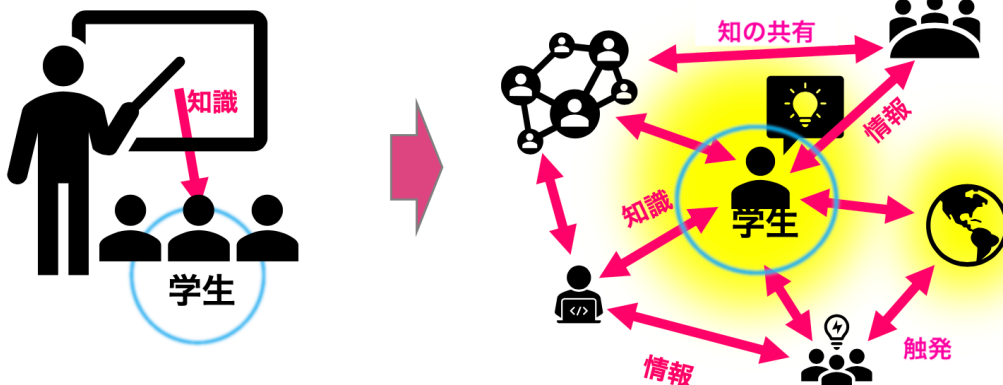


手の中の端末で、世界中の知識や情報を得ることが可能な状況にすでになっている。

学習者自身が仲間とネットで繋がり価値ある成果を創造的に生み出すなど、知識の流れはしなやかで多様な双方向性を持つ。

もはや知識の伝達は単純な一方向のベクトルから、自由に拡大する放射状に変化している。

DXで「知識」の流れが変わる



Copyright © 2023 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved

ハードスキルからソフトスキルへ

工業高校で身につけることは、いわゆるハードスキル（具体的な職務に必要な技術や知識）が多い。しかし、それが単体で成り立つものであれば、今後 AI やロボットに置き換えられる可能性が高い。新しい時代は、コミュニケーション力や創造性、課題解決力などソフトスキル+“その人ならではのセンスや能力”など唯一性が価値をもつようになる。

AI 時代の教育プラットフォーム

ープロジェクト学習・ポートフォリオ

新しい時代に求められるのは、コンピュータや AI を活用できる「スキル」でも、企業が求める人を輩出する「社会人基礎力」でもない。求められるのは、AI が不得意な新たな価値を創造できる、アイデアや唯一性だ。

自ら未来へビジョンを描き、仲間とともに課題を解決しつつゴールへ向かえる力、そして、溢れる情報に翻弄されるのではなく「自分の頭で考える力」がいる。考えるためには、自ら知

識や情報を獲得することが必要だ。

そして何より、事実や真実こそ大事だ、という「意志」がいる。ここに「意志ある学び」を叶えるポートフォリオ・プロジェクト学習が次世代教育のプラットフォームとして応える。

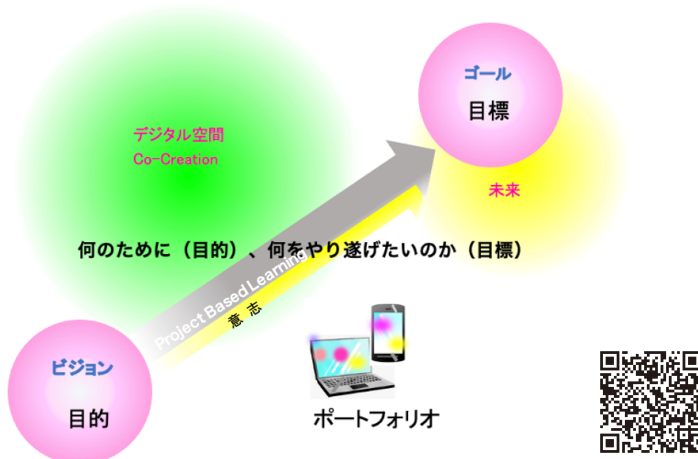
プロジェクト学習とは

プロジェクト学習（Project Based Learning）とは、学習者自身がビジョン（目的）やゴール（目標）を明確にして未来へ向かう学び。学習の成果として『他者に役立つ知のアウトカム』（＝新たな価値創造）を生み出すことを特徴とする。新たな価値を「共創」Co-Creation する力が身につく。

「Project」の語源は、ラテン語の pro（前）+ ject（描く）。前（未来）に向かって投げかける、この語源の意味するように、自らのビジョンやゴールを前方（未来）に描き、そこにロックオンして未来へ向かう学び。そのゴールへ向かうプロセスで手に入れた知識、情報、ひらめき、仲間とのアイデアなどはバラバラにせず、ポートフォリオに一元化しつつ進める。

プロジェクト学習のイメージ図

プロジェクト学習（Project Based Learning）とは、学習者自身がビジョン（目的）やゴール（目標）を明確にして向かう学び。



未来教育プロジェクト学習は、チームで新たな価値を創造的に生み出す。学びは教室の中で終始することではなく、無限のリアルとデジタル空間がステージである。ポートフォリオを互いにシェアしながらプロジェクトを進める。プロジェクトメンバーは、世界中どこにいてもデジタル空間へ結集することができる。体は現実の空間にいるが、頭の中でひらめいたこと、創造的なアイデアを生み出すワクワクする活動

ゴールへ向かうプロセスで手に入れた知識、情報、ひらめき、仲間とのアイディアなど…ポートフォリオに一元化する。

プロジェクト学習には基本的なフェーズ展開がある。各フェーズでは活動が全く異なり、それぞれ新しい知識やスキルをそこで身につけることができる。

ビジョン
願い

Project Based Learning

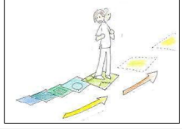
ゴール

他者に役立つ「知のアウトカム」

新たな価値創造

ポートフォリオ

プロジェクト学習のフェーズ活動と身につく力

次世代プロジェクト学習モデル		
フェーズ	活動	身につく力(普遍的な力)
準備	 目の前の現実や状況を見て課題を発見する。基本情報を獲得する。ネットだけでなく現地へ行く、人と会うことが必須。	☐ 自ら課題を発見する力 ☐ 現実直視・気づく力 ☐ 現実を俯瞰して、総合的にとらえる力 ☐ はじめて出会う人とのコミュニケーション力 ☐ 社会の現状を知ろうとする姿勢
ビジョン・ゴール	 プロジェクトのビジョンを描き、ゴールを明確にする。同じ課題意識でチーム結成し、話し合い、チームの目標を決める、チームビルディング。	☐ ビジョン力 価値ある「目的」へぶれない姿勢 ☐ 目標設定力 具体的な「目標」を決定できる力 ☐ チャレンジ心 ☐ 社会の課題と自らの課題を重ね合わせて考える力
計画	 目標達成のために、これからすべきことを考え、戦略的な計画を立てる。チームの役割、資質、能力を活かす。	☐ 戦略的な計画力 ☐ すべきことを自ら考え出せる計画力 ☐ 優先すべきことを決定できる力 ☐ 限られた時間を有効的、戦略的に活かす力
情報・解決策	 現場へ行く。専門家や当事者に話を聞く。事実、事例などを得て企画力・発想力豊かに、課題解決を考える。	☐ 情報獲得につながるコミュニケーション力 ☐ 状況判断・洞察力 ☐ 根拠ある情報、新鮮な情報を獲得する力 ☐ さまざまな事態における臨機応変な対応力 ☐ 企画力・発想力 ☐ 「具体的な課題解決」を考え出せる力 ☐ 「独創的なアイデア」を考え出せる力
制作	 プレゼンテーションで提示するものを制作する。リアリティーのため現物を用意する。	☐ 視覚的にわかりやすく表現する力 ☐ 独自のアイデアをユニークに表現できる ☐ 視覚的に伝わる、表現力
プレゼンテーション	 プレゼンター同士が相互評価で改善。その後、地域社会やプロジェクト対象者へ公開プレゼンする。	☐ 知の共有・相互評価力 ☐ プレゼンター（提案者）へ役立つリターンができる ☐ 他者のプレゼンから学び自己の改善に活かせる ☐ プレゼンテーション力・コミュニケーション力 ☐ 視覚情報を活かし、わかりやすく伝える力 ☐ インタラクティブなプレゼンテーション力 ☐ 現実に役立つ提案力
再構築	 プレゼン時のリターン評価を活かし、知の再構築をする。プロジェクト学習の成果物（提案集）を生み出す。	☐ 知を再構築する力 ☐ 他者に役立つ「知の成果物」を生める力 ☐ 論理的な表現力 ☐ 改善力
成長確認	 成長を自覚し、再現性のある力とする。自分の資質を考えキャリアビジョンを描いてみる。	☐ 成長の自覚 ☐ 自尊感情・自信 ☐ キャリアビジョン ☐ 達成感 ☐ 自分の資質・能力の見出し

出典『AI時代の教育と評価』（教育出版）鈴木敏恵：著

■ ポートフォリオとは

ポートフォリオとは、これまでの作品「活動歴」「実績歴」などをファイルしたもの。紙ばさみや建築家などがもっている作品集ファイルを意味する。バラバラの情報を一元化したもの。自分が作ったもの自分を作ったものが見える。これまでの作品・成果・経験を一元化したもの。学習や仕事のプロセス全体が俯瞰して見えるファイル。

■ ポートフォリオの価値

- 1 数値化できない個性、能力、才能などが見える
- 2 ゴールへ向かう思考プロセスが見えるので対話コーチングを果たせる
- 3 事実を元にリフレーミング（違う視点から見ること）・リフレクション（一旦離れて振り返ること）ができる

■ 成長するポートフォリオの条件

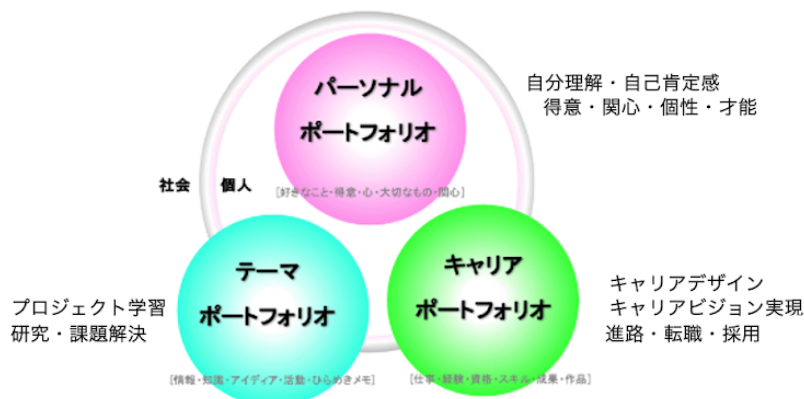
- ・「ビジョン・ゴール」を最初に入れる。
- ・根拠あるものを入れる（出典・年月・場所など）
- ・時系列に入れる
- ・メモ・スケッチ・下書きなども入れる



ポートフォリオ

■ ポートフォリオの種類と特徴

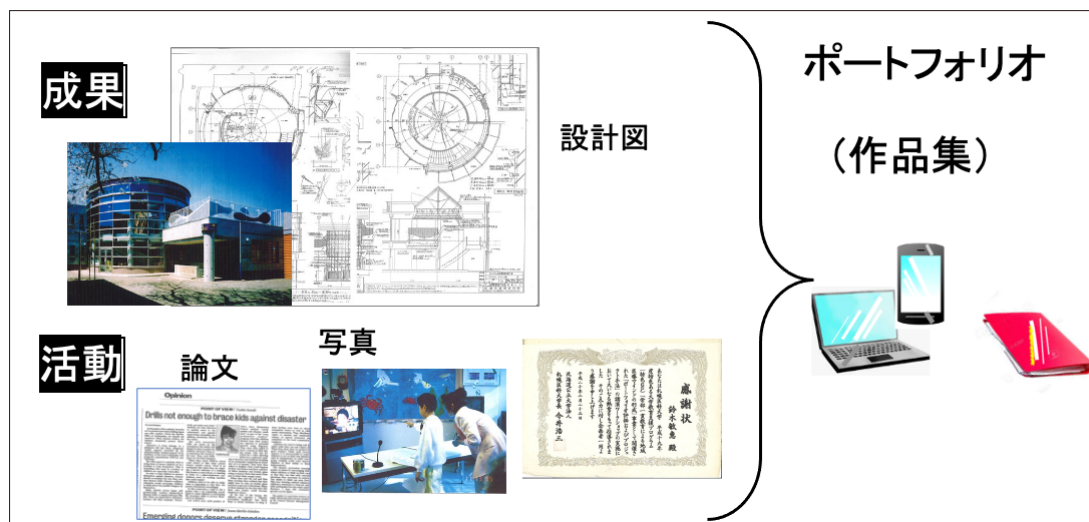
パーソナルポートフォリオには、自分の好きなことや得意など自分の心に素直に入れます。それを見ればその人のことを理解することができます。キャリアポートフォリオは自分の能力や経験、センス、個性などがわかるものを入れます。就職面接などに活きます。プロジェクトチームの役割分担などにも活きます。テーマポートフォリオは、一つのテーマ（目的・目標）に関するものを一元化します。プロジェクト学習、課題解決、探究などに活きます。|



ポートフォリオをつくり「進路」へ活かす

ポートフォリオは学習にもキャリアにも活かす。工業高校であれば、スケッチ、設計図、模型、プログラミング、作品、実習記録などさまざまなものがポートフォリオへ入れることができる。プロジェクト学習、専門性の高い研究などの成果や、創意工夫したプロセスもポートフォリオへ入れるといい。仕事や経験で得た成

長やポートフォリオを見ることで自分の得意やセンスが見えるので、キャリアビジョンを描くことに役立てることができる。進路の面接のとき、自己紹介、就職や転職など自分の得意や可能性を伝えたいときに、ポートフォリオを自ら活かすことを生徒たちへ伝えてほしい。就職したのちも転職やスキルアップ計画にも、ポートフォリオを活かして自ら学びや成長を継続させる。



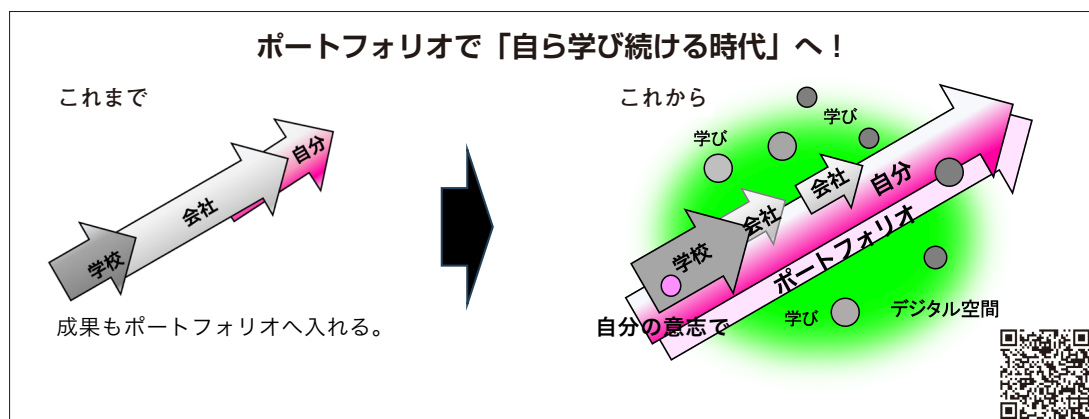
ポートフォリオで自ら学びをデザインする時代

これまでは学校や勤務先が学びのデザインをする。同じ教室でみんな一斉に学ぶ。学習や活動の軌跡は…学校や所属先が管理する。

これからは、自ら学びをデザインする。

学びはポートフォリオで一元化する。

学校教育では学びの意義や価値を得て、自分で生涯ワクワクと学びをデザインすることを身につける。

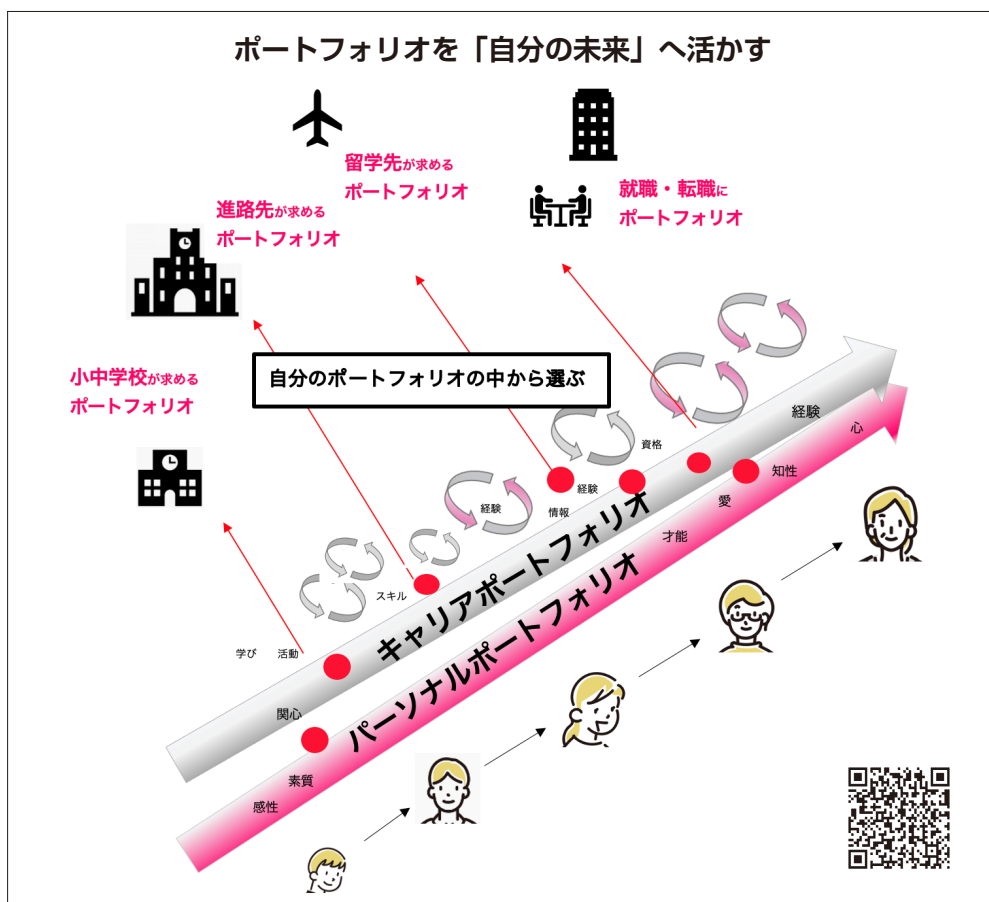


未来のためにポートフォリオをつくる

ポートフォリオ入試がすでに始まっている。

面接や就職などで必要となるから、ポートフォリオをつくる、のではなく、自らの意志で、早いうちからポートフォリオをつくっておくことが肝心だ。

小中高校などで「キャリアパスポート（ポートフォリオ）」を記入するとき、大学入試などでポートフォリオ提出を求められるとき、採用面接など…こうしたときに初めてポートフォリオをつくるのではなく、はじめから自分のポートフォリオをつくり、そこから最適と判断したものを自ら選択して提出できることが肝心だ。



意志ある学びをかなえる「対話コーチング」

プロジェクト学習やポートフォリオは、意志ある学びを叶える。その成果をあげるためには「対話コーチング」を身につける必要がある。

参考書籍

『DX とポートフォリオで未来教育』

『AI 時代の教育と評価』

いずれも著者：鈴木敏恵

意志ある学び
「対話コーチング」
説明 YouTube



AI時代の教育…意志ある学び
—プロジェクト学習 YouTube

